

【概要版】枚方消防署 新庁舎整備基本構想

1. 枚方消防署の現状と課題

《新庁舎整備検討の背景》

本消防組合の第4次将来構想計画において移転・建替えを含めた検討を行ってきたところであり、令和5年度から始動した第5次将来構想計画においても引き続き、最重要課題として位置づけています。

《庁舎に関する現状と課題》

- (1) 建築後50年以上が経過しており、庁舎の老朽化が顕著
- (2) 防災拠点としての耐震性の不足
- (3) 大阪北部地震の影響で、大規模外壁修繕が必要



枚方消防署入口 階段となっており、スロープも設置されていない。

《車庫に関する現状と課題》

- (1) 大型車両の配置制限
- (2) 前面道路との高低差による迅速な出動への支障
- (3) 車庫内のスペース不足



前面道路と高低差があり、出動時、収納時に注意が必要です。

《土地に関する現状と課題》

- (1) スペースが狭隘で、様々な災害を想定した訓練ができない
- (2) 来庁者用駐車スペースが訓練スペースと共有
- (3) はしご車等の大型車両の進入が困難



訓練施設がないため、庁舎での訓練や、単管を組んだ簡易な訓練施設で対応しています。

《訓練施設に関する現状と課題》

- (1) 訓練施設が未整備
- (2) 来庁者用駐車スペースが訓練スペースと共有

2. 新庁舎整備に関する基本方針

《基本方針》

- (1) 市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎
- (2) 大規模災害等での代替拠点となる庁舎
- (3) 市民の防災研修の拠点となる庁舎
- (4) 経済性、機能性、環境面に配慮した庁舎

《新庁舎に必要な機能》

庁舎機能

- ・免震、耐震機能 (Is値 0.9以上)
- ・セキュリティ機能
- ・機能的レイアウト
- ・ユニバーサルデザイン
- ・水害対応

訓練施設

- ・主訓練塔（排煙設備要）
- ・補助訓練塔
- ・訓練スペース（はしご車接塔訓練等）

車庫機能

- ・車両（大型含む）分のスペース
- ・車庫前面に資器材点検スペース
- ・出動準備室の整備

その他

- ・市民体験コーナー
- ・大規模資機材倉庫

【概要版】枚方消防署 新庁舎整備基本構想

3. 新庁舎に必要な主な機能詳細

【庁舎機能・設備】

《水害対応》

台風やゲリラ豪雨などの風水害や河川の氾濫など、未曾有の災害が発生した場合でも、消防庁舎としての機能を維持できる庁舎を整備します。

【訓練施設】

《主訓練塔》

中高層建物などの消火、救助及び救急活動を実践的に訓練できる施設として耐火造の訓練塔を整備します。また、訓練塔内部には、様々な消防活動に必要な訓練施設（火災を体感するホットトレーニングなど）を併設するものとします。

具体的には、訓練塔内で薪等を燃焼させ、実践的な熱気・煙気、燃焼実験等を可能とするため、耐火、排煙設備等を兼ね備えている訓練塔、また、低層階及び高層階からの救出訓練やはしご車を接塔することができる訓練塔を確保します。

《補助訓練塔》

主訓練塔との間で水平渡過訓練が実施可能で、その他、低所からの救出訓練、降下訓練、三連梯子の架梯訓練等を実施できる施設として、耐火造の補助訓練塔を整備します。

《訓練塔周囲》

訓練塔の周囲には十分なスペースを確保し、はしご車の接塔訓練が容易に実施できるものとし、訓練時に出動指令がかかった際に、大型車両でも迅速に出動できる動線を確保します。職員の災害対応能力を向上させるために、実践的な消火、救助及び救急活動の訓練（集団災害訓練、頻発する土砂災害に対応するための訓練）や消防団員と連携して実施する訓練スペースを確保します。

【その他】

《市民体験コーナー》

市民体験コーナー（消火器の取扱い・台風体験、地震体験、煙体験など）を設け、地域住民をはじめ市民の方々が、火災や災害の恐ろしさを肌身を持って体験できるなど、防災・減災教育の質の向上や防災意識の向上を図ります。

《大規模災害資機材倉庫》

大規模災害時に必要な各種資機材を1箇所に集約することで、防災拠点となる大規模な資機材倉庫を整備します。

4. 新庁舎整備に必要な庁舎規模及び面積

《庁舎規模》

枚方消防署管内の消防活動拠点として機能させるため、地震や浸水などの災害に強い構造であるとともに、十分な広さと利便性を有する施設とし、枚方消防署庁舎、消防車両車庫、訓練施設、資機材等の収納施設、燃料などの備蓄施設を整備します。

庁舎施設は、交替制職員（1当務約20人）事務室、毎日勤務職員（署長以下約35人）事務室、来庁者受付スペース、各種会議室、書庫、トイレ、浴室、食堂、仮眠室、トレーニング室、多目的ホールが必要です。

車庫施設は、消防車両を全車収納できる十分な面積を確保するとともに、迅速な出動態勢を確保する出動準備室、資機材を収納する倉庫や濡れた防火衣を乾燥させる乾燥室などが必要です。

訓練施設は、消防活動能力を維持向上させるための消火、救助及び救急活動を実践的に実施でき、内部にも訓練設備を有する低層及び高層の訓練塔を整備するとともに、はしご車が接塔できる訓練スペースを必要とします。

以上のことと踏まえ、敷地3,500m²以上、庁舎延べ床面積2,700m²以上とします。

	施設名	建築面積	延べ面積
施設	庁舎（4階建て）	700m ²	2700m ²
	現場車両車庫（平屋建て）	300m ²	300m ²
	その他車両車庫	60m ²	60m ²
	主訓練塔	37m ²	270m ²
	補助訓練塔	27m ²	130m ²
施設合計		1124m ²	3460m ²
敷地	訓練スペース等	2271m ²	
	来庁者用駐車場	105m ²	
敷地合計		2376m ²	
必要敷地面積		3500m ²	